

## 神埼の信仰遺産

—脊振山信仰・民衆の祈り

講演者 神埼市教育委員会主査 桑原幸則氏



### 最澄ら高僧も入山

脊振山信仰は、文献では和銅2年(七〇九)、湛譽上人が元明天皇の病氣治癒を祈願するため、現在の吉野ヶ里町に靈仙寺を開いたのが始まりといわれます。仏教では僧侶を俗世から遠ざけて修行の場として脊振山は栄えたとみられます。

それ以前にも、遣唐使が博多の津と唐の国と往来するとき、航海の安全祈願と修行の場として脊振山は重要な位置を占めていたと考えられます。伝教大師最澄や弘法大師空海、仁比山神社の命名伝承とかかわりのある慈覚大師円仁、日本茶の始祖・榮西ら徳の高いお坊さんも入山したと伝えられています。

## あなたもふるさと学芸員 「神埼塾」の講演から⑤

脊振山経塚跡

純粹な信仰貫坊  
いた  
「脊振千坊」

仙寺、下宮の修学院などを中心に、肥前側だけではなく、筑前側にも多数の寺や坊がありました。千ヶ所の寺や坊があつたわけではなく、一帯に仏僧や修驗者の活動の場がたくさんあつたことから、それらを総称して「脊振千坊」と呼ばれ、13~14世紀ごろに宗教活動の最盛期を迎えました。



仙僧たちの修行の場だった脊振山一帯

しかし、戦国の世になると、自衛手段を持たない脊振の僧侶たちは武士集団に食糧や財産を略奪され、寺の經營は途絶えました。しかし、脊振山を舞台にした宗教活動が純粋さを保ち続けたという点に、我々は誇りを持つべきなりました。

その後、部分的に細々と信仰は続きましたが、明治政府による廢仏毀釈、修驗道の禁止令で脊振山における信仰は途絶えました。しかし、脊振山を舞台にした宗教活動が純粋さを保ち続けたという点に、我々は誇りを持つべきなりました。

### 経筒に供養者の願い

脊振山にまつわる宗教関係遺跡としては脊振山経塚や靈仙寺などがあります。脊振山経塚は現在の山頂駐車場の裏山一帯に保存されています。12世紀初めから約100年間、焼物などの経筒に入れて埋納されてきました。もともと、仏法書の保存から発した埋経ですが、次第に極楽往生・現世利益といった供養者自身の願望に結びついた行為になりました。埋経はすたれています。皆さんにとっては見慣れた脊振山ですが、古来、山伏や修驗者が活動していました山であり、いろいろな面で私たちの生活と非常に密接な関係を持つていることを感じていただきたいのです。

特に上宮の東門寺は、現在の福岡市早良区に63町歩の免税地の寄進を受け、そこから上がる収益が脊振千坊のく活動をしていました。しかし、中世になると、山伏的な活動が主体になり、憑きもの落としの呪術や宗教祭礼の実施、薬・茶・塩販売などの商人的活動など、大衆の信頼を得て、脊振山の繁栄を築いたと考えられます。

特に上宮の東門寺は、現在の福岡市

早良区に63町歩の免税地の寄進を受け、そこから上がる収益が脊振千坊のく活動をしていました。しかし、中世になると、山伏的な活動が主体になり、憑きもの落としの呪術や宗教祭礼の実施、薬・茶・塩販売などの商人的活動など、大衆の信頼を得て、脊振山の繁栄を築いたと考えられます。

### 龍造寺、江上、神代……

隆信には3人の子がいて、次男の家種は龍造寺を継げるほどの傑出し人物でしたが、神埼の勢福寺城主・江上武種の養子になりました。家種

す。以降、龍造寺の力は落ち、それ

を支えたのが鍋島というわけです。

ボルトガルの宣教師として、戦国時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあらゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するならば、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるのであった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸城を完全に占拠することをもくろん

### ◎問い合わせ先

神埼市役所 市長公室

☎ 371-0102

## シーザーに比べられた龍造寺隆信



### 宣教師が見た隆信像

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあら

ゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝

利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するなら

は、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるので

であった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸

城を完全に占拠することをもくろん

散々目に遭いました。



### 中世神埼の武士団

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

ボルトガルの宣教師として、戦国

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあら

ゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝

利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するなら

は、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるので

であった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸

城を完全に占拠することをもくろん

散々目に遭いました。



### 宣教師が見た隆信像

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

ボルトガルの宣教師として、戦国

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあら

ゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝

利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するなら

は、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるので

であった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸

城を完全に占拠することをもくろん

散々目に遭いました。



### 宣教師が見た隆信像

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

ボルトガルの宣教師として、戦国

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあら

ゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝

利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するなら

は、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるので

であった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸

城を完全に占拠することをもくろん

散々目に遭いました。



### 宣教師が見た隆信像

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

ボルトガルの宣教師として、戦国

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆信を「自分の武将としてのあら

ゆる地位がこの一戦にかかっていることを分かっていた。この戦いに勝

利することによって肥前、肥後両国

の絶対君主となり、日本で大いなる名声を獲得し得るし、敗北するなら

は、己の名譽、地位、生命、果ては息子たちの生命も失うことになるので

であった。そこで彼はこれに自らの最後の力を投入することを決意した

と書いています。

さらに「出動したことすらも感じられないよう、われらの味方の諸

城を完全に占拠することをもくろん

散々目に遭いました。



### 宣教師が見た隆信像

講演者 佐賀東高校教諭 松浦洋士氏

ボルトガルの宣教師として、戦国

時代に来日したルイス・フロイスの『日本史』という本があります。肥前

の代表的な戦国武将・龍造寺隆信についてもたくさん記述があります。

「肥前の國に龍造寺隆信」という異教徒がいた。彼はキリストian集団の大

敵、かつ暴君でキリストian宗門の迫害者だった。フロイスは、キリストianの理解者だった大村、有馬両大名

を隆信が圧迫していたことから、隆信を敵視しています。

一方で、島原の戦いに出陣する前の隆